

関係団体の意見と対応

【平成 1 8 年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。また、水深の深い地点の調査（底質も含む）についても継続して実施して欲しい。</p>	<p>① 土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの入力条件及びシミュレーション結果と排砂中及び洪水中の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水時の観測が困難な状況にある。</p> <p>このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、土砂動態の把握のため、平成 16 年以降、排砂期間前の 5 月にダム貯水池測量を新たに実施しており、本年度からは、新たに連携排砂実施期間終了後の 9 月に貯水池測量を実施している。</p> <p>この他、出洪水時、排砂・通砂時の流砂量観測や、黒部川河口より海へと流出した土砂量および土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂・通砂実施時のヘリによる空撮、海域での採水調査等を実施し、土砂動態の把握精度の向上に努めているところである。</p> <p>また、底質調査については、来年度も継続して調査を行う予定にしている。</p>

【平成18年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には、昨年引き続き試験通砂を実施し、その検証結果を踏まえ、通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p> <p>③ 猫又付近の土砂堆積対策については、土砂搬出の具体的方策を検討して欲しい。</p>	<p>② 試験通砂については、通砂基準を引き下げて通砂を実施することにより、翌年の目標排砂量を低減させ、下流河川及び海域への環境負荷を軽減出来ないものかを検討するために、今年度から連携排砂計画に組み入れ、7月13日から15日にかけて1回実施している。 来年度についても引き続き試験通砂を実施し、その効果について検証したいと考えており、その結果を見ながら、ダムの機能維持や排砂による下流河川及び海域の環境への影響の最小化を視野に入れた連携排砂及び連携通砂の方法について、検討して参りたい。</p> <p>③ 出し平ダム貯水池上流の猫又地点にある発電所放水口が出洪水により、土砂で埋まるため、発電機能の維持のため機械掘削を行っている。 この堆積土砂の処理については、より環境への影響を小さくすることができるような方法を今後検討して行きたい。</p>

【平成18年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>内水面漁業関係団体</p>	<p>① 第26回黒部川排砂評価委員会において、18年度の排砂・通砂に関しては「一時的な環境の変化」しかないとの評価であった。しかしながら、委員の中には排砂・通砂時に現地を見ていない委員が多数いる。現地を見る評価の委員を排除し、来年度の排砂・通砂時には全員が現地を見るよう手配すること。</p> <p>② 一時的にあったとされる環境への影響として、魚族への影響がある。内水面漁協としては魚族の生息調査結果からみても排砂・通砂が魚族に与える影響は非常に大きいと考えている。そこで、19年度は一年間排砂を見送り、代替措置として土砂変質抑制策を実施することにより、魚族の生息調査をすれば黒部川内水面漁業協同組合の主張が正しいことを立証できると確信している。</p>	<p>① これまでも排砂中及び通砂中に、都合がつかず、委員の状況は、排砂中及び通砂中、現地視察会を開催し、排砂・通砂の状況を確認し、委員の方々は、現地の状況を見ていただいているところである。排砂は自然現象である洪水の発生に合わせ、行おうとはせず、委員の予定や都合を勘案する面があるが、できる限り現地を見ていただくようお願いしたい。</p> <p>② 排砂による環境への影響を防止し、砂質の変質に近い場合は、下流へ毎年排砂を行うこと、かかと重要と関係団体、関係機関の理解を得ながら、排砂を実施して参りたい。なお、来年度は魚族、特にアユの生息調査を排砂・通砂のため、ご指導・ご協力をお願いしたい。</p>

【平成18年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>③ 評価委員会において評価されている各種環境指標の内には、実際の環境を評価するうえで不必要な指標が多数含まれており、不必要な調査項目のために環境への影響が分かりにくくなっていると考えられる。 そこで、環境への影響を真に明らかにできる調査項目とするよう見直しを行うこと。</p> <p>④ 「排砂ありき」の考えでの評価に対し、我々は8,000名以上の排砂の中止を求める署名を集めた。 評価委員会と各種団体、黒部川流域住民代表等との公開討論会の開催を要望する。</p>	<p>③ 第26回黒部川ダム排砂評価委員会において、「環境調査については、調査の種類や項目を取捨選択するなど、十分に吟味し、重点的、効果的かつ効率的な調査を実施すること」との評価を頂いている。 このような評価を踏まえ、関係機関、関係団体の意見も参考にしつつ、次年度の環境調査計画について検討して参りたい。</p> <p>④ 連携排砂実施機関としては、地域の意見を聴取する場として、「黒部川土砂管理協議会」において流域住民代表として市町長にご参加いただいているほか、ホームページ、投書、直接お越し頂くなど、また、勉強会・説明会等の要望があればそれに応じるなど、様々な形で意見を伺う場を設けている。 一方、黒部川ダム排砂評価委員会については、水産学、環境、地質学、河川工学等の様々な分野の学識経験者より構成しており、連携排砂・連携通砂に関して、科学的・客観的な評価を頂く場として設置している。 このように、今後とも、地域の皆様や学識経験者のご意見を伺いながら、下流の河川環境へ与える影響を軽減できるよう、排砂方法の改善に努めて参りたい。</p>

【平成18年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>① 平成18年度は平成17年度と同様、排砂・通砂が連続して実施され、長時間にわたって、合口用水の取水が停止し、組合員から大きな批判があった。 4月から9月は灌漑期で、農業にとって最も水の必要な期間であるため、連続する排砂・通砂の実施について再検討していただくとともに、取水停止時間の短縮に向けたいっそうの努力をして欲しい。</p> <p>② 連携排砂・通砂については、下流域の天候等を十分に考慮し、その時の状況に合わせて臨機に対応していただけるよう、関係箇所と協議してほしい。</p>	<p>① 通砂は排砂後の一定規模以上の出洪水発生時に、出洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めないで通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の排砂量を減らし、環境に与える影響を低減させるとの観点から必要なものと考えている。 また、本年度長期にわたり取水停止となった第1回及び第2回連携通砂実施時については、梅雨前線の活動の活発化により愛本合口堰堤での流入量が断続的に400m³/s前後の状態となったために取水停止となっている時間帯もあり、通砂作業による影響がすべてではないことをご理解頂きたい。</p> <p>② これまでも農業用水の取水停止時間を出来るだけ短くするために、平成15年度より排砂実施期間中の6月1日から6月20日の宇奈月ダム運用水位を低めに抑え、一連の排砂作業に係る時間を短縮し、用水の取水停止時間を短縮する対策を講じてきた。 また、平成17年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる7月15日から31日の期間に排砂を実施する場合は、夜間においても河川の濁り状況で取水再開を判断できる様に基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を実施している。今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討をして参りたい。</p>

【平成18年度連携排砂及び連携通砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>③ 農業関係者の中には排砂・通砂に対する認識が少ない方々がいることから、排砂・通砂実施時の住民に対する周知を強化してほしい。</p>	<p>③ これまでも排砂期間前、連携排砂実施中、排砂評価委員会および土砂管理協議会開催時等機会あるごとに新聞折り込みや記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。 また、平成17年度からは、連携排砂実施中に、みらーれテレビ行政チャンネル（入善町、朝日町）上にテロップで愛本合口堰堤の取水状況について広報している。 今後とも、連携排砂、通砂や取水停止期間の考え方等についてご理解いただけるよう関係機関等とも相談しながら、より効果的な広報の実施に努めて参りたい。</p>